



# 自宅療養ありきはダメ 治療病床と宿泊療養の増を！

**まずは感染爆発をさせない  
万全の体制を知事は取れ**

爆発を想定した万全の体制確立を図るよう求め、要望書を提出しました。

●ワクチン頼みだけでは現下の感染爆発には間に合いません。無症状感染者の早期発見、早期隔離・治療が決め手。そのた

めには検査結果が陽性になっても「治療と賃金・休業補償」の県対応がある事をアナウンスし、県民の積極的検査を促すべきです。対応した井上副知事は「まずは、この26日から三日間感染者の8割を占める高知、南国、香美の3市の住民を対象に高知市中央公園で実施する。3千人の予算5千万円。県下各地での実施は感染状況を見



●8/24 私たち党県議団は党県委員会と共に、県知事に対して、新型コロナウイルス感染症の感染

ながら検討したい。安心して検査を受けてもらうアナウンスも検討したい」と述べました。

## 夏休み延長も視野に 全児童生徒への検査実施を

安心して登校し学べる学校にすべきです。副知事は「夏休み延長の所が出てきており検討したい」と回答。家庭内感染は家族崩壊に直結するので今回、12歳以上としている中央公園での大規模検査の年齢を12歳以下にも広げ

●子どもたちへの感染が急激に広がっている。夏休み延長や教職員と児童生徒への抗原検査やPCR検査の実施で安

心して登校し学べる学校にすべきです。副知事は「夏休み延長の所が出てきており検討したい」と回答。家庭内感染は家族崩壊に直結するので今回、12歳以上としている中央公園での大規模検査の年齢を12歳以下にも広げたらどうかとの指摘にも検討を言及しました。

## 医療体制増強 持続化給付金を

●在宅療養の方針については「宿泊療養施設の確保には動

いているが、医療従事者の確保がネックになっている」と回答。医療提供体制そのものは、まだ余裕があるとアナウンスし安心してもらうと述べました。また、暮らしや営業守る取り組みを求めると、時短営業協力金の市町村での上乗せとともに、持続化給付金の県単独での給付制度を考えている事を明らかにしました。

## ●本読者ニューズ

### 一一一一号に到達

教職を辞し、1995年に高知市議会議員に当選して以来、今月で25年4カ月となるその間、赤旗日曜版の発行に合わせ、毎週毎週発行し皆さんにお読みいただいております。この読者ニューズが、なんと今週号で、ついにめでたく、四桁のゾロ目11111号を数えるに至りましたあ〜！！

一年間で48号の発行、それが1000号を越して11111号とは、自分でも驚きです。私の人生で、これほどまで一つの事をやり通し長く続けている事などまぢがいなく他にはありません。今、あらためて号数を見て驚き、自分で自分に拍手を送ってやりたい気持ちになっています(笑)



**キラリン  
にやんでも通信**

飽きっぽい私がこうして続けられてきたのは、ひとえに、今、読んで下さり励まして下さる読者の皆様のおかげです。心から感謝申し上げますとともに、引き続きご購入下さいますようどうか宜しくお願いいたします。 拝